第６学年　教科「おおたの未来づくり」学習指導案

日　時：令和６年 10 月 22 日
13：40～14：25
対　象：第６学年２組　36 名
第６学年３組　36 名
指導者：主任教諭　安田 美起
教諭　山本 隆生

１　単元名「日々、あなたのために一生懸命な人をキレイにする
唯一無二の美容メニューを開発しよう！」【A ものづくり】（35 時間扱い）

２　単元目標

多様化する生活環境において、大切な人が抱えている課題を把握・理解し、笑顔と暖かさ溢れる毎日を過ごすための美容メニューを株式会社ポーラの新規事業「BIDISH」の方と連携しながら検討・開発する活動を通して、相手意識をもって考える力や多面的・多角的な課題把握力、アイデア発想力を身に付けるようにする。

３　単元の評価規準

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A ものづくり	コンセプト	①　「BIDISH」の理念、コンセプト設定の意味を理解し、必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付けている。	①　ターゲットとする相手の話を基に、情報を整理・分析し、「Well-being」につながる美容メニューのコンセプトを設定している。	①　講話、調査等を通して必要な情報をすすんで収集し、相手意識をもって、協働的にコンセプト設定に取り組もうとしている。
	デザイン	②　ターゲットとする相手が笑顔と暖かさ溢れる毎日を過ごすために必要な内容的・方法的な知識・技能を身に付けている。	②　コンセプトに合った美容メニューを、食材・調理方法・見た目・持続可能性・実現可能性などの視点を踏まえ考えている。	②　収集した情報を基に、アイデアを出し合ってコンセプトに合った美容メニューの開発をしようとしている。
	クリエイション	③　デザインしたものを実際に創造し、分かりやすく発信するために必要な内容的・方法的な技能・知識を身に付けている。	③　「BIDISH」の方からの評価等を基に、試行錯誤して内容を改善したり、提案資料をまとめたりしている。	③　「BIDISH」の方からの評価等を受け止め、改善に粘り強く取り組んだり、活動を振り返って価値や改善点を見いだしたりしようとしている。
	ＩＣＴの活用	④　ICT を活用した情報収集・調査・スライド作成・資料作成に関する知識・技能を身に付けている。	④　効率性や分かりやすさ、持続可能性等の視点をもって ICT を効果的に活用している。	④　モラルや相手意識をもって、他者との協働や振り返り、企画や取り組みの改善のために活用しようとしている。

4　単元について

（１）単元設定の理由

今まで児童は総合的な学習の時間に、自校の実態に応じて、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や自校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づいた課題に取り組んできた。

これから、多様化・複雑化する社会において、自分たちの考えをどう表現したり、他者の考えを受け止めたりするとよいのかを理解して身に付けていることが必要と考える。「おおたの未来づくり」の実施を通して、児童の「未来を創り出す力」の育成を目指していく。

（２）学習過程

「コンセプト」では、株式会社ポーラの新規事業「BIDISH」の方に来校いただき、ポーラの企業理念「美と健康を願う人々及び社会の永続的幸福の実現を目指す」や「BIDISH」のビジョン「繋がりで溢れる社会の実現」「自分のために。が、誰かのために。なる世界の実現」についての講話を行っていただく。その後、多様化する生活環境において現代人が様々な課題を抱えていること、外的要因だけではなく内的要因から美しさの可能性について考える「食×美容」の関係性に触れ、大切な人の課題を基に、笑顔と暖かさ溢れる毎日を過ごすための美容メニューを検討・開発・発信することを理解する。「BIDISH」の方と連携しながら、コンセプト設定に必要な内容的、方法的な知識・技能を身に付けられるよう重点的に指導する。

「デザイン」「クリエイション」では、必要な情報を収集・整理・分析し、各々のアイデアを出し合って協働しながら美容メニューを開発していく。また、「BIDISH」の方からの評価・助言を基にして、より「Well-being」につながるよう試行錯誤していく。この活動を通して、相手意識をもって考える力や多面的・多角的な課題把握力、アイデア発想力、試行錯誤しながら創造しようとする力を身に付けられるよう重点的に指導する。

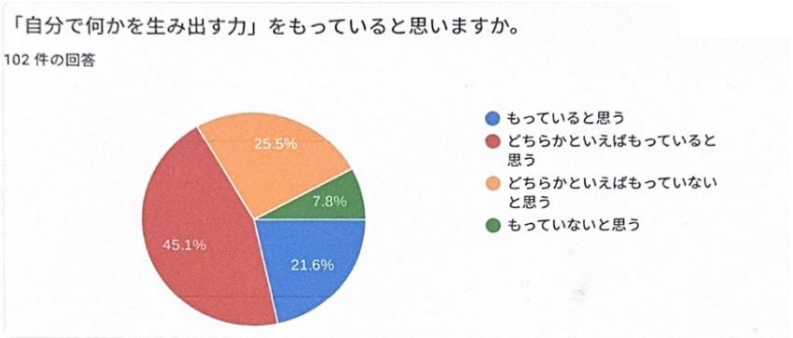
（３）本単元で扱う教科等の内容及び本単元に充てる授業時数（３５時間）

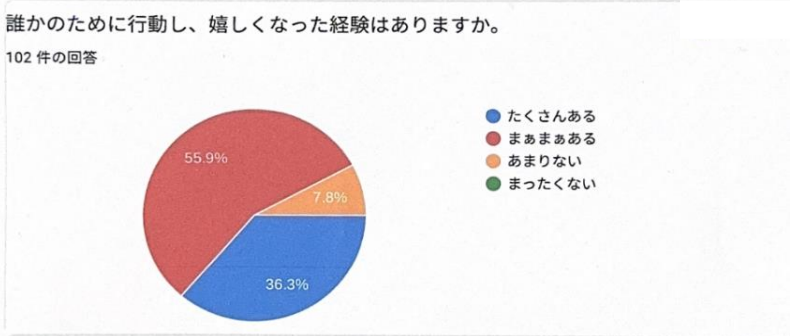
教科等名	本単元で補完する内容		授業時数
国語	書くこと	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 ・文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。	8
	話すこと 聞くこと	・資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。	
社会	国際社会	・外国の人々の生活の様子などに着目し、日本の文化や習慣との違いを捉えること。	1
算数	データの活用	・目的に応じたデータを集めて分類整理し、特徴や傾向に着目したり、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断したりしながら、その結論について多面的に捉え考察すること。	4
理科	生命・地球	・生物と環境との関わりについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。	2

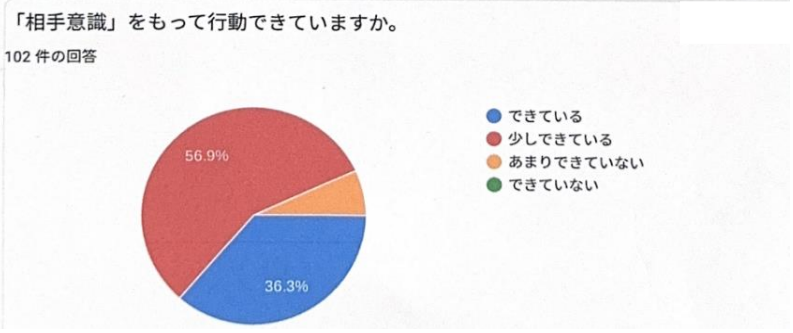
図工	共通事項	・自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。	1
家庭	衣食住の生活	・献立について考え、工夫すること。	3
体育	保健	・自分が想う人のために、課題を見付け、その解決に向けて思考、判断するとともに、それらを表現すること。	1
総合	・地域の人、もの、ことの中から問いを見いだし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理、分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付けること。		15

5　児童の実態

本学年の児童は、これまでの積み重ねによって、自分たちの主張や行動をどのように伝えたり表現したり、他者の考えを受け止めたりするとよいのかについて、総合的な学習の時間や横断的な教科の学習によって身に付けてきた。アンケートの結果は以下の通りである。







全体的に自分事として意識できているのは半数強程度である。そのうえ、どちらかといえばもっていると思う・まぁまぁある・少しできていると、自信を強くもって認識しているわけではない。それは、個人での具体的な場面の経験が少ないからだと考える。個人では行動に移せないことでも、団体の一員となると自信をもって活動を行うことができる傾向にあり、集団としては団結力がある。

6　目指す児童像に迫るための手立て

＜目指す児童像：様々な人と豊かに関わり、自らの成長に生かせる児童＞

① 相組織や目的意識をもたせた指導

① ターゲットを工夫することで、実社会で活躍する様々な人と関われる場面を生み出し、自分や他者のよさを生かして主体的に取り組み、よりよい未来を創造しようとする態度を養うようにする。

② ターゲットを工夫し、様々な人と豊かに関わる活動を設定することで、コミュニケーション力を身に付けさせるようにする。

③ 株式会社 POLA と連携し、ものづくりに必要な知識及び技能を身に付けるようにする。

④ オクリンクプラスなどのアプリを活用し、児童同士が交流を活発に行えるようにする。

（２）授業パートナーとの事前打合せ

学習内容を充実させるために株式会社ポーラと連携をした。交渉を始めたのは７月上旬。詳細な打ち合わせは夏季休業期間と９月上旬に行った。その後も、必要なときに都度連絡を取り合った。

① ７月　１日（月）　オンラインミーティング（約２時間）
② ７月１６日（火）　本校にて対面ミーティング（約２時間）
③ 夏季休業期間中　ポータルサイトのチャット機能（複数回）
④ ９月　２日（月）　オンラインミーティング（約１時間）
⑤ ９月１２日（木）　ポーラ本社にて対面ミーティング（約１時間３０分）
⑥ ９月１９日（木）　ポーラとの授業１回目
⑦ １０月８日（火）　ポーラとの授業２回目
⑧ １０月２２日（火）　ポーラとの授業３回目（エリア協議会）

⑥～⑧：都度連絡を取る。

今後の流れについては、１０月２２日（火）の授業を受けて調整していく。１１月下旬～１２月上旬頃を目途に、授業を終える予定である。

（３）ICT 等の活用

個人・グループ内の進歩状況の報告、相談、質問、振り返り、調べ学習の結果をまとめる際に、効率化や明確・瞬時に図るための手立てとしてオクリンクプラスを活用した。また、結果や動画を観たり、時間設定を設けて集中的に作業したりするなど、主に全体共有の際に電子黒板を活用した。

7　指導計画(全３５時間)

学習過程	時	○主な学習活動 ★指導の手立て	◆評価規準【観点】(方法)
コンセプト	1～3	○活動の見通しをもつ。	◆【知】①【思】①【主】① (発言・オクリンクプラス)
	4	○株式会社 POLA の方から、どのような活動を行っていくのか話を聞く。	◆【思】①② (発言)
	5～8	○ターゲットを決め、その人の現状を知る。 ★質問したいことや内容を厳選させてからインタビューに行かせる。	◆【主】① (発言・ワークシート)
	9～12	○ターゲットの想いや願いを知る。 ★質問の内容や回答をプリントにまとめさせる。	◆【知】①【思】① (発言・ワークシート)
デザイン	13～17	○ターゲットの想いや願いを基に、自分たちが目指すその人の理想の姿について考える。	◆【思】①②【主】①② (発言・ワークシート)
	18本時	○株式会社 POLA の方にまとめたものを見てもらいフィードバックをいただく。 ★ポイントとなる食材や栄養素が何かを考え、レシピを見直すよう促す。	◆【思】②【主】③ (発表・ワークシート)
クリエイション	19～26	○スライドを活用し、なぜそのレシピを作るのか、どのような姿になってほしいかを再度まとめる。 ★フィードバックを基に改善を行うよう促す。	◆【知】③【思】③【主】③ (発言・ワークシート)
	27	○株式会社 POLA の方に再考したレシピを見せ、フィードバックをいただく。	◆【知】③【思】③【主】③ (発言・発表・ワークシート)
	28	○フィードバックを基にレシピの修正を行う。 ★フィードバックを基にどのような姿になってほしいかを再度考えさせる。	◆【思】③【主】③ (発言・ワークシート)
	29	○ターゲットへレシピを紹介する。	◆【知】③④ (成果物)
	30～34	○レシピの公開の方法を考える	◆【知】④【思】④【主】④ (発言・ワークシート)
	35	○授業のまとめを行う。	◆【主】④ (発言・ワークシート)

8　本時の学習

（1）本時のねらい

企業の方からの助言を聞き、コンセプトに合った「ものづくり」となるように改善策を考えることができる。

（2）本時の展開

	○主な学習活動　・予想される児童の反応	◆評価規準【観点】（方法） ・指導上の留意点
導入	○本時の学習の見通しをもつ。 ・ 各グループでターゲットを意識したメニューを発表し、株式会社 POLA さんからの評価を基に、メニュー内容の改善につなげよう。	・よりよい「ものづくり」につながる学びとなるよう促す。
展開	○各グループが担当するターゲットへ考えたメニューを Chromebook のスライドで発表する。 ○株式会社 POLA の方にフィードバックをもらう。	・１グループの発表時間は５分であることをおさえ、時間を意識させる。 ◆【思】② （発言・発表・スライド） ・フィードバックの内容についてメモをとるよう促す。
振り返り	○振り返りを行う。 ○いただいたフィードバックを基に、次時に行うメニュー改善の見通しをもつ。	◆【主】③（発言・態度） ・次時につながるようまとめる。